

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言・自動車リサイクル士制度について… P1, P2 □第3弾 業界イメージアップのヒントを探る… P3, P4
 □経済産業省・環境省の新任担当者様よりご挨拶/自動車再資源化協力機構より～次世代モビリティ
 リサイクルシステムの構築～… P5 □2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 7 月出荷状況と
 今期累計 / 7 月新車販売・使用済自動車発生台数… P6
 □鉄スクラップ最新情報 … P7 □行事予定・お知らせ / 編集後記 … P8

vol. **162**

自動車リサイクル士制度について リサイクル技術部会長へのインタビュー

01



2022年度の自動車リサイクル士の新規講習会が9月5日から開催されます。

今回は日本自動車リサイクル機構の理事であり、この講習会の企画運営をしているリサイクル技術部会部会長 佐々木 健二氏をお招きし、自動車リサイクル士制度(以後、「自リ士制度」)について様々な思いをインタビューさせていただきました。

■リサイクル技術部会とは？

リサイクル技術部会(以後、「RT部会」)では、自リ士制度に関する活動、例えば、「この資格制度を自動車のリサイクルに関わる皆様に知っていただくための周知活動」や、各関係団体との意見交換など、この制度を軸にした活動を中心に行っています。

また、昨年度はコロナ禍の状況を踏まえ、初めてWEBを活用した新規講習会を開催しましたが、そのような開催方法の検討や調整などもRT部会を中心に取り進めています。ちなみに、RT部会とは「**R**ecycle **T**echnology」の略称です。

■年間40～50回の会議 『講習のクオリティを落とさない』

コロナが流行る前は、会場に集まって行う対面での講習会を行っており、最初はまず講師を探すところから始まりました。その後、「講師全員がテキストに沿った内容を伝えられるにはどうすべきか」という課題に直面し、そこでRT部会ではSkypeを活用して講師に向けた「講師用手本動画」を製作することにしました。

巻頭言

第104回全国高校野球選手権大会が8月6日、兵庫県西宮市の甲子園球場で開幕しました。今年は3年ぶりに観客も入り応援や熱戦を繰り広げられました。

入場行進は各校の主将だけでしたが、その堂々とした姿を見て感動を受けました。やはり試合の熱気は観客がいた方が選手含め盛り上がりを感じました。私の住んでいる鹿児島からは、鹿児島実業高校が出場。惜しくも第2回戦で敗れましたが、一生懸命プレーした選手たちの姿には大いに励まされました。

私の甥が鹿児島実業高校でサッカーをしており、今は冬の選手権の大会に向けて合宿や県外で試合に励んでおります。来年は高校最後の大会となるので、悔いが残らないように頑張ってもらいたいです。

また、2023年(令和5年)10月には「燃ゆる、感動、鹿児島国体」が開催されます。高校野球やサッカーなどスポーツ選手の姿に感動や勇気をもらいながら、私も仕事を頑張りたいと思います。

〈広報部会 伊地知 志郎〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
HP: <http://www.elv.or.jp/>

ただ、今でこそリモート会議が当たり前の時代になってきましたが、当時はまだカメラ(PC)の前で話すということに不慣れな部会メンバーも多く、話のメリハリをつけられず、何度練習してもぶっさらぼうな話し方になってしまう人もいました。しかし、部会メンバー皆が「講習会を少しでも良いものにしよう!」、「講習のクオリティを落とさない」という強い思いをもって、苦手意識を克服しながら、受講者にとって分かりやすい内容となるまで妥協せずに、この講師用手本動画を何度も何度も撮り直しました。多い月は8回、年間40~50回はリモート会議での動画撮影を行ったほどです。

そのかいもあって、受講者から“説明が分かりやすかった”という感想が数多く寄せられました。

■唯一無二の存在を目指す

この自り士制度を、他に類をみない、自動車リサイクル業界で唯一無二の資格制度にしていくことを目指しています。

また、講習会で使用するテキストも関係団体のご支援を得ながら、一語一句自分たちで内容を精査し、「この業界でテキストに代わるものない。こんなにしっかり作り込まれたテキストは他にありますか?」といえるクオリティであると自負できるまでになりました。「虎の巻として使いたい!」という方や、自治体、保険会社や税理士の方からも「この業界の仕組みや流れをしっかりと学びたい」ということでテキストを購入される方もいらっしゃいます。

■解体業許可の際の基準を目指す

せっかく受講するのだから「自り士の資格を解体業許可の際等で活用出来るものになれば良い」と考える会員さんも少なからずいらっしゃいます。実際に「自動車リサイクル士認定証の写し」を引取業やフロン類回収業の登録の際に提出する書類の1つとする自治体も出てきました。また、講習会には自治体の皆様にもオブザーバーとして参加いただいております。受講後のアンケートでは、「講習会の開催頻度や受講受付人数が更に増える等の条件が整えば、(解体業を含む)登録・許可更新時の基準の1つとしてこの自動車リサイクル士の資格を採用することは検討に値する」という意見もいただいております。

■今後の展開・ビジョン

この講習を受講することで「自動車リサイクル法の理解」・「安全作業」・「適正処理」の3つを身に付けることができ、その方々を「自動車リサイクル士」として資格認定をしております。

今後は、今の講習内容やカリキュラムに安住せずに業界で唯一無二の存在であり続けるためにも、電気自動車の解体技術など、新しい時代に見合った解体方法は勿論のこと、常に講習内容やカリキュラムをブラッシュアップしていきたいと考えています。

■多くの人に自り士制度知って欲しい

今回はRT部会長佐々木氏への単独インタビューでしたが、

- ☐ この制度の設立や運営に協力いただいた方への感謝の気持ち
 - ☐ 機構全体が一つになって協力してくれることで機構自体も更に飛躍して欲しい。
 - ☐ 機構内、引いては業界内で、横の繋がりやコミュニケーションを生み出すキッカケにもなって欲しい。
 - ☐ 様々な事情で、業界に直接的に協力できなくても、「こういう制度があるよね」と周囲に発言していただくだけでもありがたいし、いつかそういった点が線になり、認知が広がってくれたら良い。
- という思いを聴かせていただきました。

また、「自り士のような制度は諸外国には存在しないのではないかとよく言われます。諸外国に対して、日本の自り士制度を紹介・アピールすることにも前向きな姿勢を示されていました。

制度そのものもそうですが、本来なら敵対し合ってもおかしくない同業者が互いに協力し合い、このような制度を作り上げること自体も日本の良き文化として世界に向けてアピールしていただけたらと思います。



第3弾 業界イメージアップのヒントを探る!!

～会宝産業株式会社の取り組み～

02

「業界のイメージアップ」をテーマにお届けしている新年度企画第3弾として今回は会宝産業株式会社(石川県金沢市)の取り組みについてご紹介いたします。

自動車リサイクル業界のイメージアップ

私たち会宝産業は、自動車リサイクル業界のイメージアップのために様々な取り組みを行っています。中でも「会宝リサイくるまつり」は地元の人にも愛される、当社を代表するイベントの一つです。

ちなみに「会宝リサイクル祭り」ではなく、車を強調するために「会宝リサイくるまつり」と謳っています。

会宝リサイくるまつりは少しでも多くの方に「リサイクル」についてもっと身近に感じていただきたい、そして「もったいない」と「あとしまつ」について楽しく学ぶ機会にしてもらいたいとの考えから始めました。今の日本ではリサイクルは身近なことになりつつありますが、車のリサイクルとなると知る機会が少なく、また、いわゆる3K職種(きつい、汚い、危険)というイメージが先行しています。こうしたイメージを変え、私たちが行っていることは未来をつくる大切な事業なんだということをお祭りを通して知っていただきたいという想いで行っています。

2011年から1年に1回開催してきた「会宝リサイくるまつり」ですが、年を追うごとに浸透し、地域の方々のみならず遠方からもお客様が遊びに来てくださるまでに成長しました。一番多い時にはなんと4,443名もの方が来てくれたこともあるんです!さすがにその時はスタッフもてんやわんやでした……。

さて、そんな「会宝リサイくるまつり」も、一昨年、昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止を余儀なくされました。毎年参加して下さっていたお客様からは「今年はないんですね……。くるま解体ショーを見たかったので残念です。」という感想をいただいた時には、私たち社員も本当に残念に感じたものです。しかし、今年は8月6日(土)に満を持して3年ぶりに開催することができました!今回のテーマは『「わたしたちのあとしまつ」～明日の地球、今日よりキレイに～』。節目の10回目ということもあって、過去9回の経験を踏まえて、いくつかの進化を遂げました。



【開場直前のオールスタッフミーティングの様子】

【進化 その①】

開催時間をこれまでの9時-16時から14時-21時に変更しました。毎年35℃前後の暑い日に開催してきたので、「暑いのが苦手で……」というご意見もいただいていた。それなら、夕方から夜にかけても開催してみよう!ということで時間を変更。昼はにぎやか、夜はちょうちんに灯がともって、いかにも夏祭りという雰囲気になりました。

【進化 その②】

これまでの日曜開催から土曜開催に変更!夜までたっぷりとお楽しみいただき、翌日はゆっくりとお過ごしいただくことができると来場者アンケートでも好評でした。



【初めての夜開催。最後まで楽しんでくださるお客様がいらっしゃいました】

【進化 その③】

くるま解体ショーの回数を増やしました。毎年大・大・大人気のくるま解体ショーを2回から3回に増やしました。これまで時間が合わずに見られなかったという方にもご覧いただける機会が増え、好評でした。今回も練りに練った内容で、「バッテリーボーイ」という新キャラクターも登場。早くも人気の兆しです。ご興味のある方はYoutubeで「会宝産業 くるま解体ショー」と検索してご覧ください♪

こちらをクリック ▶ <https://www.youtube.com/watch?v=ihvDzSy1q3M>



【大人気！くるま解体ショー】



【新キャラクター。その名もバッテリーボーイ】

【進化 その④】

リサイクル教室をパワーアップしました。エアバッグを使ってトートバッグを作るコーナーは満員御礼。お子様の夏休みの工作にぴったりということで大人気でした。また、カードゲームをしながらSDGsについて学んだり、サステナブルな町・徳島県上勝町から先生をお招きして、一歩進んだりリサイクルについての取り組みを学べるワークショップも開催し、どちらも楽しみながらリサイクルについて学べたと高評価でした。

こうした取り組みを通して環境保護に貢献するとともに、私たちのいるこの業界の重要性を多くの方に伝えられるように、今後もさまざまな取り組みを行っていきます。

担当：総務部総務課 主任 兼 秘書室 川村 祥子



【SDGsカードゲーム中の様子】



【緑日の様子】



【石川県の馳知事もご来場。静脈産業を応援してくださっています】



【終了後、社員全員で記念撮影】

経済産業省



角田 大輔様



船瀬 正光様

経済産業省
製造産業局自動車課
自動車リサイクル担当
角田 大輔
船瀬 正光

今年度、経済産業省の自動車リサイクル担当に着任しました角田・船瀬です。今後、自動車リサイクルが一層推進されるよう精励してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よりしくお願いいたします。

自動車リサイクルにおける最近の取組みとして、解体段階等における素材回収に係るインセンティブ制度に関して、「使用済自動車に係る資源回収インセンティブガイドライン(中間取りまとめ)」を本年3月に取りまとめました。関係者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

今後は最終的な取りまとめに向けて検討を進めてまいりますので、皆様方の一層のご協力とご理解をよりお願いいたします。

環境省



坂口 武史様



佐藤 俊様

環境省
環境再生・資源循環局
総務課 リサイクル推進室
坂口 武史
佐藤 俊

平素は適正な自動車リサイクルの推進にご尽力をいただき御礼申し上げます。今年度より環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室に配属されました坂口・佐藤です。

自動車リサイクル法については、令和3年7月に「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」が取りまとめられました。昨今の世界情勢からも、資源の少ない我が国での循環型社会の構築やカーボンニュートラルの重要性は増してきており、自動車リサイクルは環境と経済の両側面から貢献できる事業と考えております。

引き続き、皆様方のご協力をよりお願いいたします。

自動車再資源化協力機構より

～次世代モビリティリサイクルシステムの構築～

自動車再資源化協力機構(以下、自再協)では、現在、次世代モビリティ(自動車リサイクル法対象外の車両～主に原付扱いの1人乗り車両や、電動キックボード等)のリサイクルシステムを構築しています。

本システムは、今後の多様なモビリティ社会への移行を想定し、低コストで効率的な使用済対象車両の回収・リサイクルが可能となるセーフティネットです。原付扱いの1人乗り車両や電動キックボードは、自動車リサイクル法の対象外となる為、将来使用済みとなった際の各種環境問題の未然防止、適正処理促進が必要となります。自再協では、多様なモビリティ社会における廃棄時も含めた健全な市場の育成に向け、関係業界が一緒になってリサイクルの側面からも広く社会に貢献することが重要と考えています。

また、本システムは、廃棄物処理法の広域認定を取得し、2023年下期以降に運用を開始する予定ですが、「認定解体事業者(名称；次世代モビリティ認定リサイクラー)」として、ご参画いただける解体事業者の皆様を募集しています。(お申込み窓口は、日本自動車リサイクル機構(JAERA)となります。)

【主な応募資格】

- ・自動車リサイクル士資格(有効期限内)を有する従業員・役員が在籍する事業者
- ・電動車整備特別講習(低圧電気特別教育)の修了証を有する従業員・役員が在籍する事業者
- ・自再協とのエアバッグ類車上作動契約を有し、且つ 相当量の作動実績を有する事業者
- ・自再協リチウムイオンバッテリー(LiB)引取依頼システムに事業所登録を行っている事業者
- ・自リ法、廃掃法の法令違反等欠格要件に該当しない事業者等

■詳細はこちらをご覧ください↓

<https://www.elv.or.jp/index.php?itemid=1830>

2022年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 7月出荷状況と今期累計

05

【2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 7月出荷状況と今期累計】

上段 7月出荷数 下段：今期累計【単位：個】

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィールダー	クラウン HV GWS204
31	40	46	5	1	37	0	12
68	109	265	8	2	201	1	22

クラウン HV AWS210	SAI/ レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A~C	合 計
2	2	0	1	2	2	14	164
10	12	0	4	5	3	37	679

2021年度の結果は以下のURLをご参照ください。

□2021年度の結果はこちら→ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1810>

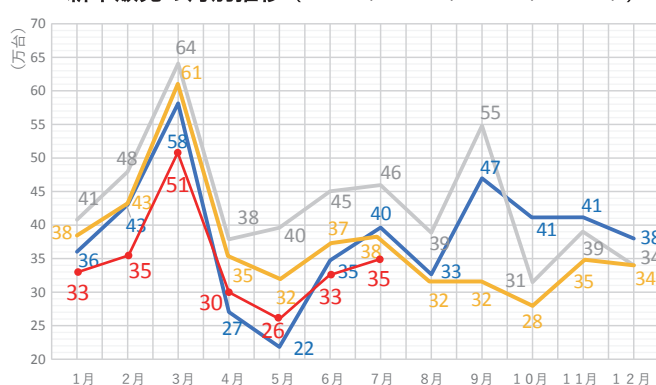
7月新車販売・使用済自動車発生台数

～7月の使用済自動車発生台数 前年同月比7%減～

06

■2022年7月度 新車販売台数 349,335台（前年同月比92.6%）

新車販売の月別推移（2022年 2021年 2020年 2019年）



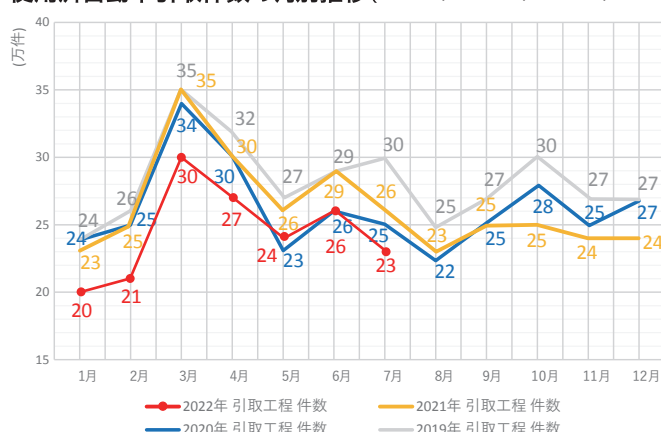
過去の新車販売台数推移

年累計	台 数	前年比(%)
2022年 (7月まで)	2,435,513	85.7
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2022年7月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況

使用済自動車引取件数の月別推移(2022年 2021年 2020年 2019年)



引取件数

227,497件（前年同月比 87.0%）

フロン回収工程

202,413件（前年同月比 86.6%）

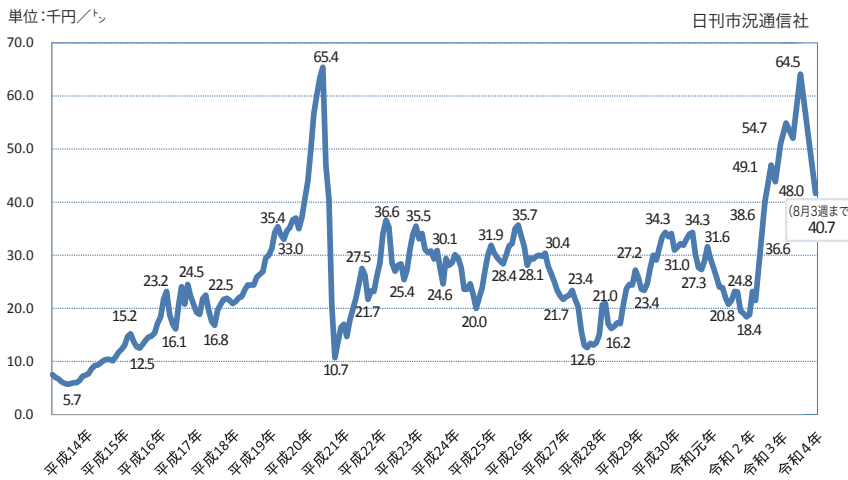
解体工程

236,013件（前年同月比 87.3%）

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

8月第4週(23日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



8月23日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	41,000～43,000	値上がり
	南関東	41,000～43,000	値上がり
	浜値	44,000～45,000	値上がり
名古屋		40,000～42,000	様子見
関西	大阪	41,000～42,500	様子見
	姫路	41,000～41,500	様子見

国内市場 市中スクラップの荷動き鈍く堅調様子見

国内市場の鉄スクラップ市況は、東日本、中国、九州市場が8月第3週末から反発に転じ、他地区も下げ止まる状況となっており、堅調様子見の推移で8月下旬を迎えている。電炉筋が夏季減産期にあり、集中炉休が散見される状況の中にあるが、一方で「夏枯れ」や3カ月以上にわたった下げ相場で市中在庫が一掃されていることなどもあって、市中スクラップの荷動きが鈍く、地域によっては品薄感も出ている状況だ。

国内鉄スクラップ相場動向に変化が生じたのは、海外・輸出価格が値上がりしたことが大きい。関東鉄源協同組合が8月10日実施したテnderで、H2をその時点の国内相場を上回る1トンあたり平均42,061円で落札した。次いで18日には、韓国の現代製鉄がH2に対してFOB42,500円を提示。品種別に2,000～3,000円値上げした。東南アジア向けの商談も含めて、8月第3週末時点のH2輸出価格はFOB42,500～44,000円どころへと続伸し、一部さらに高値での成約もあるともされる。

こうした輸出市場の変化を受けて、湾岸商社・シッパー筋が引き合いを強めたほか、市中に先高観が広がり、市中問屋筋の出荷姿勢が一服。全国的に鉄スクラップの荷動きが鈍化し、夏季減産下ながら需給に引き締め感が生じる状況となっている。

【関東地区】 浜値先行高で電炉筋に上げ余地

関東市場では浜値が先行高となっており、電炉購入価格に割安感がある。8月23日時点のH2浜値は1トンあたり44,000～44,500円中心、高値45,000円見当へと続伸している。これに対し、H2炉前実勢価格は41,000～42,500円中心、高値43,000円見当だ。このため電炉筋の間に値上げ改定が散発している。電炉高値筋も割安な状態にあり、夏季炉休が集中しているものの、今後、追加値上げが予想される状況となっている。

【東海地区】 需給双方様子見姿勢で8月下旬入り

名古屋地区の鉄スクラップ市況は需給双方とも様子見姿勢のまま月下旬を迎えている。お盆休みを挟みながら輸出価格が上昇したことを受けて、湾岸筋には先行して購入価格を引き上げる動きが見られる。ただ、地区電炉はお盆期間中の操業によって相応の在庫減少に至ったものの、8月前半までに潤沢な在庫を抱えたことで、依然として在庫余力を残すメーカーが多い。H2炉前実勢価格は40,000～41,500円中心、高値42,000円見当。

【関西地区】 需要面に力強さ欠き市況は膠着商状

関西地区の鉄スクラップ市況は膠着状態が続いている。アジア向け輸出商談が地区相場を上回ってきており、これに合わせて荷動きにも停滞感が見られ始めた。しかし8月第4週から地区電炉2社が夏季炉休入りとなり、他社も在庫観点から鉄スクラップの手当てを急ぐ状況にないことが、底値からの反発へと向かわせにくい要因となっている。H2炉前実勢価格は、大阪地区が41,000～42,500円中心。姫路地区が41,000～41,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、8月23日午後時点のもの)

行事予定

ー 9月の主な行事予定ー

- 9月1日(木)
 - ・第3回 次世代モビリティリサイクルシステム説明会 (WEB)
 - ・次世代モビリティリサイクルシステム申込開始
- 9月5日(木)
 - ・自動車リサイクル士新規講習会講習動画配信開始(11月25日まで)
- 9月6日(火)
 - ・第2回 ブロック長会議 (WEB)
- 9月8日(木)
 - ・第6回 広報部会 (WEB)
 - ・J-FAR(樹脂リサイクル社会実装事業)定例会 (WEB)
- 9月9日(金)
 - ・自動車リサイクル士更新講習会
- 9月16日(金)～30日(金)
 - ・日本自動車リサイクル機構第9回景況調査
- 9月20日(火)
 - ・第4回 常任役員会 (WEB)

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

September

お知らせ

～自動車リサイクル促進センターより～ 「自動車リサイクルデータBook2021」公表のお知らせ

2021年度の自動車リサイクルに係る実績を取りまとめた「自動車リサイクルデータBook2021」を、自動車リサイクル促進センターのウェブサイトで公表しました。

また、2020年度版から、自動車リサイクルのデータの一部をWebサイト上で操作しながらご覧頂けるページ「Web別冊編」を掲出しています。

地域や時系列で絞り込み等、見たい情報にフォーカスして閲覧することが出来ますので是非ご活用ください。



■ 自動車リサイクルデータBook公表ページ (自動車リサイクル促進センターHP)

▶ <https://www.jarc.or.jp/data/databook/>

編集後記

今年はあちらこちらで「三年ぶり」という言葉が聞かれています。このお盆休みも田舎への帰省、盆踊り、花火大会、夏祭りなどなど。本当に「久しぶりの夏」を感じたのは私だけではないと思います。ちなみにこの「・・・ぶり」は出世魚のぶりと、もしかして何か関係があるのかと国語辞典を開いて見ましたが、それらしき記述はどこにもありませんでした。ぶりは成長するにつれて「わかし」「いなだ」「わらさ」「ぶり」と名が変わります。成長するにつれ名が変わっていく様と「・・・ぶり」は無関係かと思いつつも、「三年ぶり」「五年ぶり」と使われる「ぶり」は過ぎ去った時間の程度を表すもので、ある程度の時間が経った時再び元の状態に戻ることに期待感が含まれていますが、ぶりが成長していくことへの期待感とはどこかで共通するのでしょうか。いずれにしても孫の成長を楽しみに、孫との思い出作りを毎年できることを願っている高齢者の一人です。

そしてまた、来年も再来年も何一つ変わることなく仕事も人との交流も、新型コロナウイルスに負けないで粛々と出来ることを願うばかりです。

(広報部会長 田村 幸男)